きわかぜ

号　数　第　３　４　３　号
発行日　令和６年７月１日
発行所　金 光 教 靭 教 会
〒550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX　06(6541) 6313
mail：utubo1905@gmail.com

天地金乃神大祭がお仕えされました（5 月 12 日）

人をこの世に送り出された神様の願い

教会長　　鍵　山　公　生

徳を得ること

人間の欲は計り知れませんが、このお道ではその願いを追求するためにはまず「神徳を受けよ、人徳を得よ」との教えのごとく、徳を得るには信心をさせていただき、神様から信用され、人から用いられる人になることです。その神徳を積むためには教会へお参りし、み教えを聞かせていただき、素直に教祖様の教えを守り、神様のみ心に近づく稽古をすることです。そして日々の生活の中で、人間を生かそう生かそうとして下さる神様のお働き、お恵みを知ってお礼を申し上げることです。

たとえコップ一杯の水を飲ませていただいても、「神様ありがとうございます」といってお礼させて頂くというように、天地の神様のあらゆるお恵みを知って、

その一つ一つにお礼を重ねるのは神様からお徳をいただく第一歩です。

信心するといっても、困った時だけではなく、神様と共に日常生活をさせていただくという心を忘れず、子孫の末まで幸せな生活ができるようにと願うことです。

神様からの徳だけではなく、親からの徳も有り難いことです。その上、子孫が繁盛し、家が繁盛するためにも徳の貯蓄をすることが大切なのです。

一人一人持って生まれた遺伝子

教祖様は「人間は、生まれる時に証文を書いてきているようなものである。生まれたときにどういう災難があるとか、こういう不幸せがあるとかいうことは、決まっている。それは神様はよくご承知なのである。」と仰せられています。しかし信心を強くすれば、大難は小難にしてくださり、小難はお取り払いくださるということです。それが、おくり合わせをいただくということなのです。

医学的な考え方によれば、人間が持っている遺伝子に書き込まれているといわれる内容と同じことが言えると思います。金光様は明治の初期に既に神様からお知らせをいただいて私たちにお教え下さっているのです。

人間はこの世になぜ生まれてきたのか。それは神様がお造りになったからでしょう。さて神様が造られたというならば、どんな考えからでしょうか。そんなことを考えたことはありませんか。そんなことを問題にするどころか、与えられた命をいかにして生きていけばいいかと目先のことばかりにとらわれて生活しているという方もあるでしょう。

この世で魂を磨くために

ある先生は、神様がこの世に人間をお送りになって、この世に差し向けられ、魂を磨く修行をすることがこの世での任務だと教えられました。その任務として人のお役に立つために働き、徳を積ませていただきつつ魂を磨くのです。そうでなければこの世に生まれて、ただ、遊んで暮らし、飯を食って、便所で用を足すだけの生活では、修行にはなりません。

山本定次郎氏が初めて金光様の御広前に参拝した時、まだ何も申し上げていないのに、金光様の方から「人間は、どうして生まれ、どうして生きているかということを知らねばなりませんなあ」と話しかけられ、「金光様はその時の天地のお恵みについてのみ教えをされ、その一言、一言が胸に突きささるように心に応えて、大変感激した。」と伝えておられます。

そのように人間の命の根源はどこにあって、その命の根源を知って天地にお礼を申し、そのお礼を親や世の人々のために尽くして徳積みをさせていただくこと

を教えてくださいました。命ある限りはその務めを全うすることにあるのです。

しかし日常の生活の中で先祖から知らず知らずに犯してきためぐりあわせによって、難儀なことが起こってきます。そこで神様のお繰り合わせをいただかねばなりません。そこにはめぐりを取り払う修行がいります。出会った巡り合わせを繰り合わせて取り払わねばなりません。ですから出会った難儀はおかげをいただく前の関門と言えます。人間はそのように困ったことが起こらないと反省も改まりもできません。「難はみかげ」と仰せのごとくです。私たちは種々の運命や巡りを持って生まれてきています。それをそのままにしておいたのでは運命のままで、一代が終わってしまいます。「前々の巡り合わせで難を受けおる」と言われるように、その巡りの原因が何かはわからなくても、それをお取り祓い頂けるよう取り組むことです。

道にお導きして徳積み

若先生がお話になっていた難波教会の近藤藤守先生の伝えですが、ある熱心でよく参拝しておられるご婦人が、風邪をこじらせて回復を願ってお届けされましたが、それに対して、後であの方は助からないと伝えられました。その理由は、「自分のことをあれこれお願いし、おかげもいただいてこられたが、その有り難いことを人に伝え、このお道の知らない人を導いて助けてあげようとしていない。そういう徳を積んでいないからだ」ということを話され、その婦人はその後亡くなられました。そのように、いくら自分は熱心に信心をしておかげを受けてきても、人を助けるためのご用にたつという徳積みができていないことにおかげを受けられない原因があるということです。

私たちはこの世に送り出されて、自分の損得、利害関係を求めるばかりの信心ではなりません。人のために尽くし、先祖も助かり、子孫も立ちゆく徳積みをさせていただいて、神様の元にお国替えさせていただくことができれば、幸せの絶頂というものです。

生神金光大神大祭並びに靭布教 120 年記念祭奉行

１１月１７日（日）午前１０時３０分より

本年は和田安兵衛先生が靭の地に布教されて 120 年の記念の年をお迎えいたしました。そして 11 月 17 日（日）には、生神金光大神大祭に併せて靭布教 120 年記念祭が仕えられます。

ご都合お繰り合わせを頂かれ、ご家族そろって、神様に御礼の真心をお供えさせていただきましょう。

隣のビル建築に当たりて

　靭教会東隣に昨年１月より１２階建てワンルームマンションの建築が始まりました。基礎工事では７～８メートルほど掘削され、そこからまだ地中に３０メートルの基礎杭の穴が掘り下げられました。他のビル建築などの工事を見ても必ず周りの地盤が崩れているのを見かけるので、教会も被害を被るのではないかと心配していましたが、案の定、境界線に建っているブロック塀がゆがみ出しました。そばに建っている境内のトイレ棟との隙間が日に日に開きだし、その状況を工事業者に報告して見てもらい、業者に後で立て替えてもらうように申し出ました。しばらく日が経ってから工事業者は、「数年前の大阪北部地震時、高槻で学校のブロック塀が倒れ、通学中の児童が亡くなり、それからブロック塀は４段以上は積めないと建築基準が決まったので、建て替えはできない」とのことでした。それならばもっとしっかりした鉄筋の塀にでもしてもらえるのかと考えていました。その上、居宅の台所のタイルにもヒビが入り出し、業者は「修理をします」と言うだけで、マンションの工事は順調に進められていきました。このまま知らぬ顔で逃げるのではないかと考えたりしましたが、ともかく隣のマンションが差し支えなく完成されるように神様にお願いしておりました。

　今年の３月ようやく業者と話し合いがあり、「ブロック塀やタイルの修理をするが、建て替えはできない。その代わり境内の便所内部の改装をさせていただきたい。それとヒビが入っている境内駐車場のアスファルトを全面やり替えることで許してほしい」と申し出られ、やむなく了解しました。

　教会にとっては５０年以上も経ったトイレは和式で、かなり汚れており、以前から信奉者の要望もあり、洋式便所に改装したいと考えていたところでした。

　トイレ工事は３月から２ヶ月かかって完成し、見違えるほど美しくなり、アスファルト工事も５月末に完了し、境内も一新しました。

あれもおかげであった

　今考えると、今年は靭布教１２０年記念の年で、境内トイレと、駐車場の改修をすることができ、それも業者の都合にて費用のことは全てご奉仕して下さり、神様のお繰り合わせいただいたのだと御礼申しています。

　業者が最後の挨拶に来られ、「長い間ご迷惑をおかけしまして、他であればもっときつく不足を言われ、弁償しなければならないところ、そちらのご好意により、我慢をしてくだされ、助かりました。」と言ってお礼を述べて帰られたのでした。

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出ししてご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
（7月21日・8月24日ともに午前10時30分より）

令和６年７月

６日（土）　御本部月参拝　　午前６時出発
７日（日）　うりわり墓参　　午前７時
１４日（日）　月例祭執行　　午前１０時３０分
１５～２８日　夏季信行期間
１９日（金）　信徒共励会　　午前１０時
２１日（日）　月例霊祭執行　　午前１０時３０分
祭典後教話、日本橋筋教会　成田信哉師
講題：「人もわが身もみな人」

８月

１日（木）　月例祭執行　　午前１０時３０分
３～４日　　少年少女全国大会参加
・御本部月参拝
１１日（日）　月例祭執行　　午前１０時３０分
１２日（休）　うりわり墓参　午前７時
１６日（金）　信徒共励会　　午前１０時
２４日（土）　月例霊祭執行　午前１０時３０分
祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

９月

１日（日）　月例祭執行　　午前１０時３０分

夏越の感謝祭
６月２３日

半年間無事に過ごさせていただいたことの御礼と、神様へ知らず知らずのうちに行っているご無礼をお詫び申し上げるご祭典と、人形にご無礼をうちのせてお祓いする「人形行事」がお仕えになられました。
祭典後、準備いただいた「みつ豆」を食しました